

平成 2 8 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
2 事業推進者等	(所属部局)(責任者職名・氏名) 芸術・体育学系 教授 洞谷亜里佐 (共同実施者職名・氏名) 准教授 五十嵐史帆
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 小林古径記念美術館 (担当者職名・氏名等) 学芸員課長 笹川修一 学芸員 市川高子
4 事業の趣旨・目的	上越市の小林古径記念美術館は、日本画家小林古径を顕彰することを中心に掲げ、日本画についての教育発信を行っている。美術館では作品の展示だけでなく、平成 22 年度から平成 25 年度まで、日本の伝統文化や造形活動を体験する 6 回の講座をもうけ、暮らしの中での伝統を楽しむ活動を行った。平成 26 年度は、大学の地域貢献事業として連携して左官職人からの講座を行った。今年度も美術館と大学の連携講座を企画し、地域文化を見直す実技体験を美術館から、地域社会へと教育普及活動を広めていく方針である。そしてその繋がり役割として上越教育大学の教員と大学生が、日本画教室や地域のものづくりなどの伝統文化活動に関わり、指導や助言を行っていく。また、展覧会に合わせた大学生企画による造形ワークショップを行うことで、充実した鑑賞教育を提案する。このように、伝統文化教育の講座を美術館と大学との連携で展開することにより、地域文化を生かした特色ある学習プログラムを開発することを目標とする。
5 事業活動報告	毎年行なっている子供に向けた日本画教室「古径の楽校」において、学生が美術館の学芸員からの指導の元に美術館鑑賞を子供と一緒にいき、その後日本画制作の手助けをする一連の活動を行なった。今年度は日本の伝統工芸である蒔絵によるワークショップを行った。学生にとって、伝統工芸の歴史や漆を使った表現内容を直接職人作家より学び実習を行うことで、日本の伝統文化理解教育の意義を明確化させることができた。また指導者として子供達へ日本文化の良さを伝える根幹を学ぶことができた。 ワークショップの内訳 「蒔絵のマイスプーンを作ろう」講師：室瀬祐 日程：12月3日(土)16時~蒔絵と漆についての講義と実習 ワークショップアシスタントとしての指導の手順の解説 12月4日(日)9時半~中学生以上の一般 20名 13時半~小学生とその保護者 10組

6 本事業で得られた成果	・日本の伝統文化である蒔絵ワークショップを、美術館と大学が連携して行う教育普及活動を行うことで得られた成果は主に以下のことである。 ①教育大学の人的資源を地域に還元し、地域文化の発展に微力ながら貢献した。 ②教育を学ぶ学生に多様な教育のありかたについて、実践を通して学ぶことのできる貴重な機会を得ることが出来た。 ③地域の文化、美術館との連携についての見識を高め、教育者としての資質を向上させることができた。 ・教育活動として、昨年度訪問した小学校へ引き続き実習することができ、継続的日本画教育を行うことができた。
7 その他 (成果物等の名称)	蒔絵のスプーン

提出期限：平成28年3月25日（金）